

実践⑦ 伊仙町中央公民館図書室

1 はじめに

伊仙町中央公民館は昭和 46 年に開館し、今年 55 年を迎えます。図書室はその中にあり、平成の中ごろに一部を改装し、一般室と児童室に分かれているのが特徴です。さらに、児童室には畳敷きの絵本コーナーもあり、小さいお子さんも安心して過ごせるようになっています。また、公民館内の図書室という利点を活かし、ロビーでの本の展示にも力を入れています。

蔵書数は約 28,000 冊で、そのうち児童書や絵本が約 13,000 冊になっており、子どもの本の割合も高いです。

2 子どもの読書活動の推進

(1) 「はこぶっく KUKURU」の巡回

コロナ禍での利用促進のため、2021 年 9 月より巡回が始まりました。

月に 1 度、小学校 8 校、中学校 3 校、保育園（子ども園）・幼稚園合わせて 6 施設と各集落を巡回しています。子どもたちと会話をしながら選書のお手伝いをしており、行き先に合わせて少しずつ資料の入れ替えを行っています。また、希望にあわせた内容で配本も行っています。



(2) 学童での読み聞かせ

月に 1 度、放課後わくわくクラブ・放課後児童クラブにて読み聞かせを行っています。季節の行事や子どもたちの興味関心に合わせた選書を心がけていますが、児童によっては集中が切れてくるため雰囲気作りが課題です。

(3) 学校での読み聞かせ

今年度は中学校 2 校で月に 1 度、朝読書の時間に読み聞かせを行っています。

1 校ではボランティアにも入っていただいております。地域と学校の橋渡しにもなっています。また、読書行事等の際には、学校からの要望を受けて出張おはなし会を開催しています。

今年度は、七夕おはなし会や緑陰読書でのアニメーションを行いました。

(4) ブックスタート事業

3・4 か月健診時に赤ちゃんと保護者を対象に、絵本 1 冊、ブックリスト、図書カードの利用申込書を手渡しており、後日、図書室を訪れる姿もみられます。

(5) 図書かんも～れ

毎年、夏休みに開催するおはなし会で、「図書館」と、方言で「いらっしやい」という意味の「かんも一れ」を掛け合わせて作った言葉です。

夏休み期間に開催することで、普段あまり利用しない子どもたちが図書室へ足を運ぶきっかけ作りを目的にしています。今年度は夏に関連するパネルシアター、大型絵本、ボランティアの方による方言での読み聞かせを行いました。



(6) クリスマスおはなし会

社会行事の意味を知り、親しみを持って、他者と楽しい気持ちを共有することを目的に、12月に開催しているおはなし会です。今年度は夏に引き続き、ボランティアの方による方言での読み聞かせや職員によるブラックパネルシアターなどを行いました。ボランティアの方がサンタやトナカイに扮して参加してくださり、よりクリスマスの楽しい雰囲気が高まりました。



3 おわりに

公民館図書室ということもあり、町民全体に向けて、まだまだ周知が足りないと感じています。まずは、子どもたちを中心に利用が広がっていけるように、「はこぶっく KUKURU」での巡回やおはなし会を、より一層きめ細かなものにしていきたいと思えます。そのためにも学校や地域と連携し、子どもたちに寄り添う図書室でありたいです。